

2023年5月12日 セミナー「人と多様なモビリティが共生する安全で心ときめくまちづくり調査」
ゆっくりを軸とした地区づくりのための交通・道路・都市のあり方を考える
～フランス調査結果報告を通じて～

閉会挨拶

一般財団法人日本みち研究所 専務理事 森山誠二さま

日本みち研究所の森山でございます。今日は対面と Web で 1200 人を超える方が参加され、大変盛況だったかと存じます。本当にありがとうございました。

運輸総研の三重野さんと矢内さんからの調査報告、筑波大学の谷口先生のご講演、そして、パネルディスカッションで、いつもお世話になっている石田先生を始め、ヴァンソンさん、古倉さん、牧村さんに、活発なご意見をいただいたと感謝しております。

「ゆっくり」をどのように公共空間に実現するのか。これは本当に重要で、なかなかできていませんでしたが、何とか実現できるかもしれないと、今日、思った次第です。

「日本みち研究所」は、目で見ると何の違和感もなくわかりやすいのですが、電話ですと、大体 3 回ほど聞き直されてしまいます。例えば「日本道路研究所」であれば、恐らく違和感はないでしょう。

日本人の心理の中で、「道路」はわかりやすい。しかし、「ゆっくり」という概念もある「みち」というものは、浸透していないと思います。

三重野さんのお話の中で「環境教育」がありました。これは歩行者空間をしっかりと確保し、それを潤いの空間にしようという教育や哲学が、まだ浸透していないということではないかと思えます。市民の要望も踏まえて速度を制限しにくかったり、危ないという声が多いことで、結果的に使いにくい空間になってしまうことがあります。ガードレール等を作ることによって利用を制限するため、却って広々とした空間がなくなるという、谷口先生のお話もございました。これは、道路管理者や警察等が分野毎の責任感があるので、結果的にそうなってしまっていることでもあります。そういう意味では「環境教育」が大変重要だと思っています。

令和 2 年に、歩行者利便増進道路制度ができて、現在は劇的には変わっていませんが、少しずつ変わってきていると思います。しかし 30 年でフランスはこんなに変わったが、日本は 30 年であまり変わっていない気がするというお話もありました。今日を機に、30 年後の日本が劇的に変わっていけるよう、今日の登壇者の方々を含め、運輸総合研究所、日本交通計画協会、それから日本みち研究所も頑張っていますので、皆様のご声援をよろしくお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

以上